

令和2年12月25日
文責：西原 寛（東京理科大学）

日本学術会議 化学委員会無機化学分科会（第25期・第1回）議事録

日時：令和2年12月25日（金）13:30~14:30

会場：オンライン（ZOOM）会議

出席者（敬称略）：委員長 長谷川 美貴、副委員長 伊東 忍、幹事 西原 寛、井頭 麻子、加藤 昌子、北川 進、北川 宏、酒井 健、唯 美津木、谷口 功、所 裕子、山内 美穂、山下 正廣

欠席者（敬称略）：内田 さやか、田中 晃二

報告・審議事項

進行役：西原

(1) 委員の自己紹介と出席確認

(2) 第24期無機化学分科会活動の説明

化学委員会無機化学分科会（第24期・第3回）議事録をもとに、前期の無機化学分科会の活動内容を共有した。

(3) 委員長、副委員長、幹事の選出

全員の合意のもとに、長谷川 美貴 委員長、伊東 忍 副委員長、西原 寛 幹事を選出した。

座長：長谷川委員長

(4) 学会や国際会議等の現状の情報交換

COVID-19 の感染拡大に伴う国際会議の開催予定変更について報告された。ACCC8（台湾）は2021年から2022年に延期され、それ以降のACCC（タイ、ベトナム）も開催年を1年遅らせる（山下）。ICCC（イタリア）は2020年から2022年に延期され、それ以降のICCC（米国、デンマーク）も当初の2年遅れで開催する（山下）。ICBIC20（オーストラリア）は2021年から2022年に、AsBIC10（アジア生物無機化学国際会議）は2020年（中国）が中止となり、2022年に神戸で開催される（伊東）。

錯体化学会の新会長として、従来の委員会等の見直し、企画委員会の設置、本や論文の国際連携などの新しい施策を実施している（北川宏）。

(5) 第25期の活動方針（自由討論）

今期3年間における活動として、提言やシンポジウム開催について意見を伺いたい（長谷川委員長）。

分科会委員に錯体化学研究者が多いので、本分科会の活動が錯体化学に偏らず、広く無機化学をカバーするように心がける必要がある（北川宏）。

無機化学全般を網羅するために、日本化学会の無機化学関連ディビジョン間の連携ができるとうまい（西原、加藤）

分析化学分科会ではSDGsをテーマに産業界とも連携した活動を行う予定である（谷

口)。

学術会議としてロードマップを作成・報告しておくことで、国の政策に対する提案に役立つと思う(山下)。

ロードマップをつくるには、シンポジウム等で幅広く意見をまとめておくことが望まれる(北川宏ほか)。

意見を総合して、今期の3年間の活動として、複数回のシンポジウムの開催と、それを踏まえたロードマップの作成を目標とする。詳細はメール会議、オンライン会議等で議論を重ねて、来年の秋までにシンポジウムの企画を立て、再来年春の学会等で開催することをスケジュールとする(長谷川委員長)。

(6) その他

前期に議論した「アジア最先端ハイブリッド物質研究連携センター」の計画提案は日本学術会議のHPに記載されている(計画番号 112 学術領域番号 26-2)(山下)。

学術会議ではAIに関する施策が大きく動いている。オール化学の動きなので、その中に上記計画提案関連を入れて無機化学として貢献できるのではないかと(西原)

参考になる情報：文部科学省の「マテリアル先端リサーチインフラ」の公募(https://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/material_research.html)(長谷川委員長)

(7) 閉会